

作事組だより

第 131号 (2026年8月発行)
一般社団法人 京町家作事組
〒604-8241
京都市中京区三条通新町西入釜座町32
Tel 075-252-0392 Fax 075-252-2392
E-mail: kyomachiya@sakujigumi.com
事務局開局時間: (月)9:30-12:30
(火・木・金)9:30-16:30(祝祭日を除く)



【地域連携事業 京町家再生プロジェクト完了報告】

昨年5月にお施主様である大阪の不動産会社カンパニートラスト株式会社様のお声がけにより始まった、作事組・京都美術工芸大学建築学部・京都移住計画・京都市景観まちづくりセンターとの地域連携事業「京町家再生プロジェクト～人を想い、暮らしをつくる～」の解体現場に出向き、学生さんが改修プランを考え、模型を作り、アイデアを発表し、それを受けて弊社の末川が設計し、高田工務店の改修の現場を視察し...と、完成するまで1年かけて学んできた上京の物件がついに完成し、4月初めに完成見学会を行いました(写真1)。

まず、お披露目のセレモニーでは、番匠保存会に属している作事組会員によるお祝いの木遣り唄を歌わせていただきました。木遣り唄は大工の労働歌で、京都市登録無形民俗文化財です。大工たちの威勢のいい声でおめでたい『金鶏鳥』と『祝い唄』を、お施主様と改修物件の弥栄の気持ちを込めて、参加者の皆さまの前で披露させていただきました(写真2)。

学生さんやプロジェクト関係者の他に室町自治連合会会長・自主防災会会長様にもご挨拶いただき、地域住民や作事組のお施主様も雨天にもかかわらず、たくさん見学に来てくださいました。

また、4月中旬には京都美術工芸大学にて1年間の学びの軌跡を振り返る最終回が行われました。学生さんの完成模型、構造模型、パネルが展示された会場でお施主様が今までの活動をムービーにして上映くださり、学生さんそれぞれがこのプロジェクトを通じて得た学びを発表してくれました。なかでも、在来工法とは違う京町家の正しい修復方法や、実際に住む人のことを考えた設計を学べて良かったとの言葉がうれしかったです。その後、私たち関係者も一人ずつ振り返りのコメントをさせていただきました。京町家の伝統構法について、座学だけでなく現場で実際に体得し、学生一人一人が目の前の課題に真面目に向き合った結果、伝統構法の裏にはそれを支える各職方やそれらの道具を作る職人がいるということまで学んでいただき、充実のフィナーレを迎えることができました(写真3)。

改めて、町家を改修するにあたり、「ぜひ伝統構法で!」とご依頼くださった(株)カンパニートラストの担当西端様・柳原様と橋本社長に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

(京町家作事組事務局 阿部景子)



写真1: 見学会の様子



写真2: 番匠保存会による木遣り唄披露



写真3: 最終回での集合写真

【カンパニートラスト邸改修工事完了報告】

今回は、施主であるカンパニートラスト株式会社様主催の地域連携事業で、歴史ある京町家を継承していく上で、「輝く未来に繋がる人財をつくる」と「不動産再生による地域貢献」この二つの実現を目指す『京町家再生プロジェクト』に、京都美術工芸大学の生川先生と学生の皆様、京都移住計画の株式会社ツナグム、京都市景観まちづくりセンターの皆様と共に、作事組の施工担当として参加させていただきました。

現場は路地奥にある三連棟の南端の物件で、真ん中の棟は最近改修工事されたばかりでしたが、不陸調整や歪み直しなどの構造については未改修でした。

共用の妻壁面の際(きわ)に、埋められた古井戸があり、その付近の柱の沈下が顕著で、且つ断続的に下がり続けていく状態でしたので、共用の壁通りの柱のレベルはそのまま、一つ石であった柱石を成(高さ)200mm長さ約6尺の延べ石にすげ替え、荷重を広く分散させる処置をしました。

当改修工事では、可能な限り伝統構法で改修するという作事組の方針にのっとり、ササラや胴差などの構造材の仕口では構造金物を一切使用せず、床組を柱に緊結しないなど、表からは見えない部分でも伝統木工技法を施しました。

火袋部分にあった過去に増設された二階の床を撤去し、新たにストリップの廻り階段と一階を見下ろす二階廊下を設けたことで、開放感溢れる吹き抜けのトオリニワとなりました。

一階のミセノマとナカノマは既存の意匠を崩さず、既存の建具もほとんど再利用したなかに、スタイリッシュなキッチンを設置しました。踏込辺りから中を見渡すと、今昔の意匠が見事に調和された空間になったと思います。

プロジェクトの最終回では、学生の皆様より今改修工事に携わった感想を聞かせていただきました。実際の改修工事の過程を生で見たことで、伝統的な京町家の完成された高い構造的、機能的な素晴らしさを、実感として理解したことが伝わってくるものでした。

先達から脈々と受け継がれてきた伝統京町家の技術と精神を、次世代を担う若者に伝えることができ、個人的にも京町家保存の観点からも貴重な機会を与えていただきました。

(京町家作事組施工担当 高田 聡)



外観 改修前



改修後



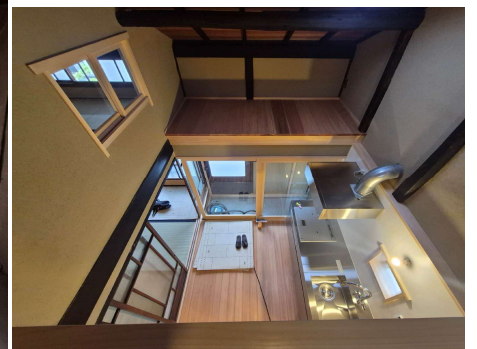
台所 改修前



→ 改修後



火袋 改修前



改修後

【京町家再生プロジェクト ベンガラ塗体験報告】

まだ寒い2月21日(日)に前述の京都美術工芸大学の学生さんに伝統構法を学んでいただいている上京の京町家において、「ベンガラ塗」と「油引き」の体験を実施しました。本プロジェクトのメインメンバーに加えて、生川慶一郎教授の声掛けで集まった建築学部1～4年生有志も参加してくださいました。指導するのは、本物件施工担当の高田棟梁です。

まず最初に、高田棟梁よりベンガラの性質について説明がありました。ベンガラは、防腐・防虫効果があり、塗布面に膜を張らず浸透するため木の呼吸を止めることがなく、材が長持ちします。さらに、剥けても何度でも塗り重ねることができるうえに、たとえ口に入っても酸化鉄なので人体に無害なのが最大の利点です。

説明の後には、ベンガラ塗で物件が汚れてしまわないように足元などに養生シートをみんなで貼ってから作業をスタートしました。最初は慎重だった手つきも次第に慣れ、塗りにくい格子の横の部分まできれいに塗っていきました。昼休憩をはさんでベンガラが乾いてきたところで、午後は塗を更に美しく仕上げる油引きの作業に入りました。学生さんたちは和気あいあいと楽しみながら細部の作業まで丁寧に取り組んでいました。

寒い時期の外作業でしたが、お天気に恵まれ、見違えるような町家の外観を取り戻しました！

(京町家作事組事務局 阿部景子)



【シリーズ：新・町家構造事始 第5回】

今年もう祇園祭が終わり、送り火も間近になりました。時の流れの速さに咄然とします。前回のたよりでお伝えしたように1月7日に、「wallstatによる京町家の地震時の構造的評価の報告」の話題提供の場を頂きました。日頃より町家の保全継承で協働する京都市・景観まちづくりセンターに協力が頂けました。当初からシミュレーションの取組みを共有していた京都市建築行政職員の方々や作事組のニューズレターで「wallstat」に関心を持っていた方々、センターの職員の方々、京都市に登録の京町家専門相談員、町家再生に取り組む活動団体会員など、多数の参加がありました。質疑応答も充実し、活発な意見交換の場になったと自負します。(伝建地区の改修で知己を得た文化庁や府の担当者は、ご近所ながらご欠席、次回の意見交換を待ちます！)

報告は京都市建築審査課の寺門係長に頭と結びで締めて頂きました。大正以前型の町家と昭和初期型の町家では軸組の性能が大きく異なり、地震に対して課題があるのは後者であること、その性能向上のための改修の方向性について簡潔にまとめて頂きました。Wallstatでの検証の精度を上げるため、今後、実験データの補強が必要な項目への示唆も頂きました。学芸出版社の知念氏からは「作事組が好勝手言っている感がなくなり、しっかり地に足着けて印象づけられたと思います。」

会場の提供や公報で尽力いただいたまちセンの西井課長からは「町家の構造の説明もさることながら、シミュレーション動画がわかりやすくして衝撃的、構造への苦手意識が変わりそう、膨大な労力と経験で導き出された町家の間取りや構造の最適解が、実際の改修工事で実証できることを祈念します。」

その知念氏より報告の成果をまとめるよう提案があり、5月の連休明けに「町家構造事始」改訂出版に至りました(下図)。新旧二種の町家の構造をwallstat検証した成果を8章以降に井澤が追記し、本文は全体を最新の知見に改めて、末川が加筆修正しています。シミュレーションの動画を見られるサイトも紹介しています。

報告会や出版とは別に、現場での課題や実務は続きます。寺門氏からは昭和初期型の町家の性能向上に向けて、現実的な改修手法検討への協働の提案がありました。京都市の町家新築の設計図書省略認定への勝手連で、井澤が試行錯誤のシミュレーションで得た成果では、大黒柱と小黒柱のサイズアップが地震に大きく有効です。しかし改修での導入は現実的でなく、1,2階が連動して踏ん張れる要素の検討が必要です。

京都市に遺贈された大型町家の、今春からの利活用計画策定の下請業務ではwallstatによる構造的評価を提案しました。担当課長にも年初の報告会に臨席頂き、京都市には万々歳のつもりでした。しかし国の耐震改修促進法では時刻歴応答解析が採用されていない(?!)、あえなく頓挫、再びハードルは霞が関まで遠のきます。Wallstat開発者の中川先生にもここが難関のようで、とにかく周知を広げ世論に載せるしかありません。寺門氏から先生に、日本各地の伝統構法でのシミュレーションと各地の教育研究機関との連帯への提案がありました。作事組全国協議会や町並みゼミでも発信していく課題が明確になりました。

(京町家作事組設計担当 末川 協)



【おもちつきイベント報告】

2025年12月14日(日)に作事組事務局のある釜座町町家にておもちつきと古道具市を行いました。京町家の建築文化を広い年代の方々に体験していただきたい思いで始まったおもちつきも、今回で4回目です。

今回は過去最高の147名の幅広い年齢層のお客様がお越しください、この会も根付いてきたんだなとうれしく思っております。参加くださったみなさま、誠にありがとうございました。

また今回はランチタイムの混雑に対応しきれず、おもちの作成やテーブルが空かずにお待たせしたりと、改善点もありました。すでにもち米を蒸すせいろを買い足し、来年に臨みたいと意気込んでおります。また、テーブルには限りがありますので、次回からは混雑時には席を譲り合っておもちをご賞味いただくように声かけをしたいと思います。

もち米や食料品全般高騰につき、振る舞い餅とはいきませんが赤字覚悟でがんばりますので、今後も続けていきますよう、どうぞみなさまご理解のほどよろしくお願いいたします。

(京町家作事組事務局 阿部景子)



【町家の日 古道具市開催報告】

今年も「町家の日」の協賛企画として3月7日(土)に「掘り出し物市」を行いました。祇園祭後祭、年末もちつきの際にも行っていますが、新町通での他のイベントとの相乗効果があり、例年一番の来訪があります。作事組のお施主さんも覗きに來てくれます。

町家の改修は「片付け」からとはよく言いますが、工事の際に、不要になったけれど、新しい持ち主に譲りたいお道具を供出いただき、さらなる町家再生への契機につなぐ目論見です。

江戸、明治期の器から、照明器具や建具や箆笥、結婚式の引き出物など、まさに掘り出し物が山盛りで、釜座町会所にいっぱい並びます。当日のお客様の対応もやりがいがありますが、値段付けも楽しい作業です。昨今はスマホの写真検索も便利と教わりました。時に品物が人間国宝の有田焼であることも分かります。

私事ですが、自身の終活にも役立てて、我が家の道具をまとめて供出しています。しかし毎回なにがしか欲しいものが、他所から見つかって...今回はオールドファッションドグラスをゲット、毎日の晩酌で愛用しています。

(京町家作事組設計担当 末川協)



【祇園祭後祭イベント報告】

毎年7月21日～23日の後祭宵山期間に冷たい飲み物の販売とヨーヨー釣りのイベントを行っています。このオープン町家企画も今年で5回目になりました。今年の宵山期間はすべて平日で、外気も36℃超えて人出が心配されましたが、夕方から次第にお客さんが増え、今年も京都醸造さんからご提供いただいたクラフトビールを完売することができました。日和神楽が来る宵山の夜は、写真右下のようにお客さんや見物客で事務局前は最も盛況な時を迎えます。

大人にも小さな子供にも町家を体験してほしいと始めたこのイベントですが、子供たちの夏休みの思い出になるように、これからも続けていきたいと思ひます。

(京町家作事組事務局 阿部景子)

